

事業コード	事業名	事業の概要	インプット（事務事業に必要な行政資源）							アウトプット		アウトカム （事業成果を測るKPIがある場合はその状況。ない場合は「-」）			
			事業費 (千円)	国	北海道	市債	交付税 措置(%)	その他	一般財源	人工 (R3年度)	R3年度は何をどれだけしたか (利用者数・件数等)				
09 21 12	最終処分場 周辺環境保 全対策事業	処分場周辺の環境保全を目的として、附属機関会議の開催や環境調査を実施する。 <R3の主な内容> 附属機関会議の委員報酬 308千円 附属機関会議の委員旅費 7千円 環境調査業務 6,567千円 R4年度も同様の事業を継続する。	R2決算	6,169	0	0	0		0	6,169	0.5	0	・旭川市中国廃棄物最終処分場監視機関会議及び旭川市廃棄物処分場環境対策協議会をそれぞれ3回開催した。 ・旭川市廃棄物処分場ほか環境調査業務において、処分場から発生する浸出水やガス等の測定を行い、公表した。	- ・処分場の使用及び管理について、適切に運営しているかを確認した。 ・環境調査について、中国処分場の廃止に向けて必要な調査項目の見直しを行った。	
			R3当初予算	8,220	0	0	0	8,220	0						0
			R3決算見込	6,882	0	0	0	6,882	0						0
			R4当初予算	8,621	0	0	0	0	8,621						0

開始時期	実施根拠	関連する計画等	行政・民間の類似事業・サービス	改善・課題解決の参考になる事例
平成13年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>旭川市中国廃棄物最終処分場監視委員会条例</li> <li>旭川市廃棄物処分場環境対策協議会条例</li> <li>廃棄物の処理及び清掃に関する法律</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国廃棄物最終処分場の埋立終了から廃止までの維持管理計画</li> <li>廃棄物最終処分場維持管理計画</li> </ul>	一般廃棄物及び産業廃棄物の最終処分場については、法律で処理水や地下水の水質検査が義務づけられている。法で定められた以外の自主的な検査も実施しているため、検査項目や頻度に違いはあるが、全ての最終処分場で同様の調査を実施している。	【附属機関での議論をとおして削減した経費】 ・環境調査の項目・地点を精査による削減額 4億4千万円（H16～R3の累計） ・（中国廃棄物最終処分場）オゾン処理の停止による削減額 1,500万円（年間）H23～ ・（旭川市廃棄物処分場）カルシウム除去の停止による削減額 610万円（年間）H28～ ・（旭川市廃棄物処分場）膜処理の凝集剤注入停止による削減額 280万円（年間）R2～

1次評価（所管部局）			
行財政改革の視点	課題	改善・対策の方向性	見込まれる効果
① デジタル化・DX ② アウトソーシング ③ 業務の効率化 ④ 収入・財源の確保 ⑤ 事業費の抑制 ⑥ 連携・協働の推進 ⑦ 職員能力・組織力の向上 ⑧ その他	環境調査については、附属機関会議において、審議した調査項目等を測定しており、法で定められた内容も含まれている。処分場の運営には欠かせない事業であることから、財源確保は必須である。	・処分場を取り巻く環境は、毎年変化していくことから、その時に必要な調査項目に厳選する。 ・厳選した調査項目（特に削減した項目）については、周辺地域住民を対象とした説明会等を開催し理解と信頼を得る。	・地域住民の生活及び処分場周辺地域の自然環境の保全 ・処分場の安全かつ適正な維持管理体制の確立

外部評価（行財政改革推進委員会）	2次評価（行政評価検討会議）

(参考) 事務事業の「総合計画」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」「公約」上の位置づけ

事業コード	事業名	事業の概要	インプット(事務事業に必要な行政資源)							アウトプット		アウトカム (事業成果を測るKPIがある場合はその状況)		
			事業費(千円)	国	北海道	市債	交付税措置(%)	その他	一般財源	人工(R3年度)	R3年度は何をどれだけしたか (利用者数・件数等)			
09 21 12	最終処分場 周辺環境保 全対策事業	処分場周辺の環境保全を目的として、附属機関会議の開催や環境調査を実施する。 <R3の主な内容> 附属機関会議の委員報酬 308千円 附属機関会議の委員旅費 7千円 環境調査業務 6,567千円 R4年度も同様の事業を継続する。	R2決算	6,169	0	0	0		0	6,169	0.5	0	旭川市中国廃棄物最終処分場監視機関会議及び旭川市廃棄物処分場環境対策協議会をそれぞれ3回開催した。 旭川市廃棄物処分場ほか環境調査業務において、処分場から発生する浸出水やガス等の測定を行い、公表した。	- 処分場の使用及び管理について、適切に運営しているかを確認した。 環境調査について、中国処分場の廃止に向けて必要な調査項目の見直しを行った。
			R3当初予算	8,220	0	0	0	8,220	0					
			R3決算見込	6,882	0	0	0	6,882	0					
			R4当初予算	8,621	0	0	0	0	8,621					

目指す都市像の実現に向けて

(事業のアウトカムが総合計画の施策推進に貢献)

展開施策

9-2-1 ごみ減量・資源化の推進

(施策「循環型社会の形成」の一部)

(事業の目的) ごみ減量・資源化を進めるため、新たなごみ処理システムの構築により、リサイクルやエネルギー資源としてのごみ(政策の手段)の有効利用を推進します。

施策のアウトカム (評価指標≒事業の中間アウトカム)	単位	基準値	実績		達成率	目標値
			R2	R3		
1人1日当たりのごみ排出量	g	950	950	953	96.5%	920
リサイクル率	%	22.2	21.3	20.8	83.2%	25
焼却処理量	t	76429	75846	75591	93.9%	71000
埋立処分量	t	21229	21789	22090	81.5%	18000

(施策のアウトカムは将来ビジョン推進に貢献)

将来  
ビジョン

(基本政策)

環境負荷の低減と自然との共生の確保

- 環境に対する市民の意識が高まり、人と自然が共生できる社会が形成されています。
- 環境に配慮したライフスタイルが定着し、循環型社会が形成されています。
- 省エネ対策や再生可能エネルギーの導入などにより、低炭素社会が形成されています。



人口減少の抑制に向けて

(事業のアウトカムが総合戦略の施策推進に貢献)

施策 (まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策≒人口減少抑制の観点の事業の目的)

施策のアウトカム (総合戦略のKPI≒事業の中間アウトカム)	単位	基準値	実績		達成率	目標値
			R元	R2		

(施策のアウトカムが将来ビジョン推進に貢献)

将来ビジョン (総合戦略の基本目標)

総合戦略のアウトカム (総合戦略数値目標≒事業の最終アウトカム)	目標値
	R6

公約実現に向けて

市長公約